

平成22年第2回定例会 議会報告

(平成22年 6月 8日～6月28日)

かみくら
秦野市議会議員 神倉ひろあき



● 6月8日から始まった、第2回定例会は、提案説明を皮切りに議案審議、一般質問、常任委員会、議会活性化特別委員会、と続き最終日は、委員長報告をもって6月28日に終了しました。以下、議案審議、一般質問及び文教・福祉常任委員会におけるご報告をいたします。

★議案審議：一般会計補正予算(小学校耐震対策事業費)

質問：①末広小と西小の一部校舎が、耐震性に問題があるとの事だが、構造耐震指標（IS 値）は？

②診断結果は、いつ業者から報告されたか？

回答：①末広小は、0.49 西小は、0.29（危ない数値） ②昨年11月に報告を受けた。

要望：耐震性の問題を、半年以上も保護者等に説明がないし、対策がなされていないとは危機管理上問題である。子ども達の安心・安全に係わる問題であるので耐震補強されるまで、緊急地震速報受信システムなどの対策を早急に講じるよう強く願います。

★一般質問 ・孤独死対策機関の設置を！ ・困難な学校問題の解決に特別支援チームの設置を！

1. 孤独死対策について

質問：NHK スペシャル「無縁社会—無縁死3万2千人の衝撃」で放映されたように、たった一人で、誰にも知られず亡くなり、引き取り手もない孤独死は、平成20年で、3万2千人にのぼったという。内閣府の60歳以上の男女5,000人を対象の調査によれば、全体の43%が、孤独死を身近に感じ、1人暮らしの65%が身近と回答、夫婦2人でも44%が、身近に感じると言う結果が出た。平成25年には高齢化率が25.2%で4人に1人が高齢者となる。そこで、

①本市における孤独死は、過去5年間に何人あり、その実態調査はしているのか。

②独居高齢者に対する施策と見守るため関係機関との連携はあるのか。③孤独死対策について、どう考えるか。

回答：①個人情報保護等の課題があり難しい。今後、関係機関・団体の協力を得ながら把握に努めたい。②慢性疾患の独居高齢者には、緊急通報装置付き電話機を貸与していて、月2回委託業者が、安否確認をする。食事の支度困難で、扶養者の食事提供不可の独居高齢者へは、週4度を限度に宅配する。この時、安否確認する。1人暮らし高齢者の登録をしている方へは、地域高齢者支援センターの職員が、訪問や電話する。民生委員も月1回程度訪問。また、郵便秦野支店と情報提供協定を結んでいる。③対策は、重要である。複合的に施策を実施し、予防が可能となるよう取り組む。

問題点

①. 独居死の実態調査がなされていないのは問題！

- ・正確な統計資料が無ければ、対策は難しい。
- ・孤独死は15年前、阪神淡路大震災の仮設住宅で発生してから、問題視され、今や、社会問題でもある。
- ・松戸市では、市役所と関係団体が連携し、孤独死者数を把握している。その他、いくつもの自治体が、把握。

②. 1人暮らし高齢者等登録制度に登録されていない方は、千数百人に上り、全てがカバーしきれてない！

③. 地域コミュニティーや介護サービスなどへ行きたくても行けない、行きたくない高齢者への対応が重要！

④. きめ細かな対策を早急に！

例1. 松戸市常盤平団地の孤独死ゼロ作戦・・・空き店舗を利用した「いきいきサロン」。

例2. 秩父市のボランティアバンクおたすけ隊・・・元気な高齢者が、援助の必要な高齢者に生活を支援。



要望 孤独死は、独居高齢者だけではない。若者も含めて独り暮らしの人に共通で、身近な問題でもある。県も孤独死の実態調査に踏み切るといふ新聞報道もあるので、孤独死を多岐多面にわたり協議する**孤独死防止対策機関**の設置を強く願う。

2. 困難な学校問題の解決について

質問：子ども達の問題行動や不登校などに加えて、保護者を巻き込む生徒指導等の課題は、複雑・多様化しており、その対応に、かなりの学校が苦慮している。地域や保護者との意思疎通の問題が生じている場合などに備えて、関係機関の連携の下に問題解決に当たる学校問題解決支援機関を、かなりの自治体が設置している。そこで、

- ①学校問題で、学校だけで解決出来ない困難なケースは、過去5年間で何件あったのか。
②難しい問題事例としてどんなものがあるのか。③教育委員会では、どんな体制で、どう支援しているのか。

回答：①学校と学校指導課が連携した事例：平成17年は20件。18年は25件。19年は30件。20年は41件。21年は49件。②児童・生徒間のトラブル。学習環境。指導方法。保護者間とのトラブル等で数カ月に亘るものが数件。司法の場に解決を求めたものもある。③生徒指導では、いじめ・不登校対策担当の2名の指導主事が窓口となり、各学校と連絡を取りあったり現場へ行って指導。保護者へは、スクールカウンセラー、少年相談保護センター、こども家庭相談班が対応。その他、弁護士対応。

問題点

- ①. 学校だけで解決できない学校問題は、5年間で2.5倍！
・先生が、生徒指導にたずさわる時間が多く授業研究や学級事務等に係わる時間が削られる。

要望 複雑で解決が困難な学校問題を、第3者的立場で受けとめ、専門的な視点で、学校と保護者に指導・助言できる**学校問題解決支援チーム**の設置を、願う。



(学校問題解決支援チームの会合)

★文教福祉常任委員会(神倉ひろあきの主な陳情対応)

陳情 第18号：子どもの医療費無料化についての陳情
・・・趣旨採択

質問：現在、6歳児まで医療費は無料で、予算は約2億6千万であるが、中学生まで無料にすると、予算はどうか。

回答：1歳引き上げるごとに、約3千万円が必要なので、2億7千万円程度の負担増になる。

要望：現在の財政状況では、対象年齢を大幅に引き上げることは難しいが、所得制限を含めた対象年齢の拡大を検討するようお願いする。

陳情 第20号：子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を求める陳情・・・趣旨採択(国への意見書採択)

質問：子宮頸がんは、ウイルス感染により発症するとの事だが、予防ワクチンを接種する事による効果はどうか。

回答：平成21年に承認されたワクチンは、ウイルス感染を防ぎ子宮頸がん全体の約7割の発症を抑制する効果がある。

要望：子宮頸がんは、ワクチンで予防できる唯一のがんと言われ近隣の自治体でも、中学生を対象に、公費助成により接種を実施する予定である。特に、10代の児童・生徒へのワクチン接種は予防効果が高いため、早期に公費助成によるワクチン接種の検討を強く願う。

●一般質問の詳細は、「秦野市議会HPにて、録画配信しています。」是非ご覧ください。

●〒259-1322 秦野市渋沢 2-5-13 TEL & FAX 0463-88-3655 携帯:090-3533-8034

Eメール kamikura5@yahoo.co.jp 神倉ひろあき 平成22年第2回定例会 議会報告

●市民の皆様のご意見ご要望をお知らせください！！ 急行致します。